

ライブラリーナビゲーター
Library Navigator



Special Feature 1

BKCびあらの魅力に迫る

Special Feature 2

座談会・図書館をどう使いこなすのか
-意外と知らない図書館の世界-

CONTENTS

- P.2 [特集1] BKCびあらの魅力に迫る
- P.6 [特集2] 座談会・図書館をどう使いこなすのか -意外と知らない図書館の世界-
- P.8 [連載1] 図書館長からのメッセージ～学生に送る言葉
- P.9 [特集3] 図書館の学習空間と建築デザイン
- P.10 [連載2] 先輩学生から在学生に贈るお薦めの一冊
- P.12 Information

立命館大学
図書館だより

2012.11
114



図書館イメージキャラクター
よむりず

特集1

BKC の魅力に迫

Peer Learning Room

メディアライブラリー



空間

フリーエリア 2階

ブレインストーミングや自由な意見や感じたことを出し合い、相手の考えや感じていること知るなど、アイデアの創出につながるような空間です。



ディスカッションエリア 2階

持ち寄ったデータをディスプレイに映し、グループで討論を重ねながらブラッシュアップしていく空間です。



プレゼンテーションエリア 2階

作り上げてきた成果を発表することで、プレゼンテーションスキルの向上をめざす空間。可動式の机・椅子、プロジェクタ、スクリーンなどの機器を配置しています。



ファシリテーションエリア 2階

ケーススタディのような実践的課題に取り組み、成果を発表し合うことを想定した空間。メンバー以外の自由な参加もOKとするオープンな場で、皆で議論し合えます。



2012年4月3日にびわこ・くさつキャンパスの2つの図書館にもピアラーニングルーム（通称「びあら」）が開設しました。学生の皆さんによる主体的で創造的な新しい学びのスタイルを支援するために、昨年衣笠図書館に誕生した「びあら」のコンセプトを踏襲しながら、びわこ・くさつキャンパス独自のコーナー、学習支援も提供しています。BKC「びあら」とはどのような場所なのか。この記事を読んで興味を持たれた方は、ぜひ実際に足を運んで大いに活用してください。

学習支援

ライティングサポートとは…

論文・レポートに対するさまざまな疑問を相談シートに基づき、対面式指導を実施します。「どのようにすれば分かりやすい文章になるの?」「レポートの提出様式が分からない・・・」など困ったことがあれば、どのような小さな疑問でも皆さんと一緒に考えていきます。

対象

場所・日時

全学部生、全大学院生

衣笠、びわこ・くさつキャンパスともに、週1回（予定）のサポートを予定しています。

衣笠	衣笠図書館	1階びあら	毎週火曜日	16:20～17:50
BKC	メディアライブラリー	2階びあら	毎週月曜日	16:20～17:50

※日時・体制は2012年度後期のものです。今後変更の可能性もあります。

from ライティングサポート支援スタッフ

社会学研究科 土岐 智賀子さん

経営学研究科 幸田 圭一朗さん

ライティングサポートコーナーにいらした皆さんには、「論文・レポートチェック表(ループリック)」をお渡ししています。このチェック表には、論文・レポート(以下、論文)が、論文としての体裁が整っているかを見極める、すなわち、読み手(大学では主に教員)に〈論文〉として読んでもらえるかどうかにかかわる、基本的でとても重要なポイントが書かれています。まずこの表を用いて自分が書いた論文を点検して頂き、その後で、不十分だった点や疑問点を中心に、よりよい論文にするためのアドバイスをさせて頂いています。

説得力のあるよい論文を書きたい方、課題の要件の文字数をクリアすることだけの状態を卒業したい方、そして、論文執筆を通してコミュニケーション能力と課題発見能力を高めたい方にも、ぜひ、びあらのライティングサポートコーナーを活用して頂きたいと思っています。

論文やレポートを作成する際、自分の書いた文章が相手に伝わるかどうか不安になることもあると思います。しかし、正課の先生には恥ずかしくて見せることができない、もしくは相談する時間が取れないなど、なかなか解決できない場合もあるでしょう。そこで、このライティングサポートデスクでは、皆さんの専門とは異なる立場から文章に対するさまざまな相談をお引受けいたします。もし「どのようにすれば分かりやすい文章になるの?」「レポートの提出様式が分からないけど…」など困ったことがあれば、どんな小さな疑問でも皆さんと一緒に考えていきますので、どうぞお気軽にお越しください。



メディアセンター



空間

フリーエリア 1階

ブレインストーミングや自由な意見や感じたことを出し合い、相手の考えや感じていること知るなど、アイデアの創出につながるような空間です。



ディスカッションエリア 1階

持ち寄ったデータをディスプレイに映し、グループで討論を重ねながらブラッシュアップしていく空間です。



プレゼンテーションエリア 2階

作り上げてきた成果を発表することで、プレゼンテーションスキルの向上をめざす空間。可動式の机・椅子、プロジェクタ、スクリーンなどの機器を配置しています。



ホワイトウォールエリア 1階

頭に思い描いた数式・図式を広いホワイトボードに書き出し、複数のメンバーで共有し、議論することができる空間です。



ぴあら学習サポートとは…

理工学部、生命科学部、薬学部で実施している学習支援を図書館でも提供しています。具体的な内容は以下をご覧ください。

数学相談会・物理駆け込み寺

「授業の復習がしたい」、「正課以外で先生に質問する機会がほしい」、「授業に使われている専門用語や公式の理解を深めたい」、「授業以外にも学生同士で勉強してみたい」、といったニーズに応える数学・物理に関するよろず質問相談所です。

数学

- 週5日(月～金) 15:00～18:00
- 講師：非常勤講師、大学院生など

物理

- 週5日(月～金) 15:00～17:00
- 講師：非常勤講師、大学院生、学部生など

場所

メディアセンター1階ぴあら

※日時・体制は2012年度後期のものです。今後変更の可能性もあります。

化学・生物駆け込み寺

「授業の内容についていけない」、「授業中に使われている用語や公式が理解できない」、「勉強の仕方が分からない」、「パワーポイントやエクセルのグラフ作成方法が分からない」など、それぞれの学生の学習ニーズに応えるためのよろず相談所。若手講師が相談対応します。

- 週3日(火・水・木) 18:00～20:00
- 講師：生命科学部・薬学部の助手や大学院生などが、各曜日1～3名で対応。

場所

メディアセンター1階ぴあら

数学・物理駆け込み寺講師
理工学研究科
吉本 弘毅さん



私は一年半前から物理に関する質問相談所「物理駆け込み寺」で講師を務めています。今年度から、その駆け込み寺が「ぴあら」に出張し、学習サポートをおこなっています。「ぴあら」は、図書館に入っすぐの利用しやすい場所にあり、壁一面の大きなホワイトボードを使って友人と活発に議論したり、館内利用の貴重な蔵書を使って共同で情報収集することができますというほかの場所にはないメリットがあります。その際に、浮かんだ疑問をすぐに学習サポートで質問できるのがとても心強いですね。一人で練習問題を解いていた高校までの勉強と違い、大学では複数人と共同作業で情報や意見を集約し、発信することが大切です。その環境が「ぴあら」には整っていることで、学生の皆さんには十分に活用してほしいですね。

化学・生物駆け込み寺講師



「授業についていけない」とか「基本的なことが分からないが、いまさら質問できない」という悩みを持っていませんか？化学・生物で困ったら駆け込み寺へ。何を聞いたらいいのかわからない、勉強方法が分からないという方を待っています。教科書とノートを持って“ぴあら”に来てください。基礎の基礎から説明します。(三浦)

化学って難しい用語が多くて大変ですよ。なんとなく専門用語を調べていたら、「また分かりにくい専門用語が出てきたよ!」とか、「言葉が難し過ぎてイメージできないよ」なんてこと、よくあります。化学の勉強で重要なポイントは、専門用語の意味を適切なイメージで理解することです。私たち講師陣と一緒に化学を楽しく勉強しましょう。(知名)

図書館をどう使いこなす

意外と知らない図書館の世界

立命館大学文学部教授の湯浅先生は、国立国会図書館・納本制度審議会委員や日本出版学会理事、また日本ペンクラブの言論表現委員会副委員長などの役職を兼務しながら、電子書籍化の問題について深く関わっておられます。現在より少し先をイメージした「学び」のスタイルと図書館活用について座談会を開催しました。

学生の情報へのアクセス方法

湯浅：私は他キャンパスの学生と話をする機会があまりないので、今日の懇談を楽しみにしていました。さっそくですが、図書館をど

のように利用していますか？

春山：課題が出た時は必ず図書館に来ています。

久万：私の場合は、英語や資格の本、自己分析、面接といった就職関係の資料をよく利用しています。

湯浅：レポートや論文を書く時にはどのように図書館で調べ物をしていますか？

春山：まず図書館の蔵書検索(OPAC)を使って関連のある文献を手にとって調べます。

湯浅：「これかな」とあたりをつけて、請求記号を元に書架に行っ

て本を手にする。そして、関連のあるものを何冊か手にとってみる。閲覧室で目次や索引、著者の略歴を見て、関連する本だなというのがだんだん形になってくる感じですね。

春山：そうですね。あとは検索した本の周辺のものも目に入るので手にとって調べます。

湯浅：図書館の棚に並んでいる資料はNDC(日本十進分類法)で分類されているので、請求記号の周辺の本も見ると。これは非常に正しいやり方ですね。ピンポイントの検索だけでなく、ブラウジングで新たな発見ができるのはリアル図書館のメリットといえますね。そこに今まで自分が想定していなかった本があったとかそういう経験もありますか？

春山：はい。あります。

湯浅：それでレポートを実際に書いて、使った文献を参考文献、引用文献として示して一件落着、みげいな感じでうまく収まっていますか？

春山：図書館に本がなくてCiNiiを検索したこともあります。

湯浅：学術論文のナビゲータですね。要は書籍の形でない論文や記事をCiNiiを使って調べ、これを読んでみようということですね。

久万さんは就職や資格関係の本を普段から利用されているとのことですが、雑誌については利用されていますか？

久万：雑誌は普段はあまり読まないですが、読もうと手に取るのは、

棚の一番前で表紙が見える形で出ているものです。バックナンバーまで遡って探すことはしないですね。

湯浅：表紙などで気になるテーマがあれば見るという形ですね。

学生が思っている以上に資料の電子化が進んでいる

湯浅：学術雑誌の場合は1990年代の中頃から海外の学術出版社が自然科学系を中心に冊子体から電子ジャーナルへの移行を急速に進めました。ところで『週刊朝日』がデジタル雑誌として出ているのは御存じですか？

二人：知らなかったです。

湯浅：他にも新潮社や講談社などの大手出版社が紙の本を出すと同時に電子書籍で出していく流れになっていて、これからは図書館でも電子資料の活用がますます必要になってきます。

レポート作成には最新情報を活用

湯浅：論文やレポートを書くということ

は、先行研究がどのようになっているのか、また最新の動向はどうなっているのか、文献にもとづいて書くというきまりがあるわけですね。しかし、図書館での利用が紙媒体だけだと、得られる情報が少なくなってしまいます。お二人は経済学部・経営学部ということで、『日経新聞』や、『日経流通新聞』などの検索をする時にデータベースの威力が発揮されると思うんですね。「聞蔵」や「日経テレコン21」等のデータベースを使ったこともあると思うのですが、使ってみてどうですか？

春山：いくつもヒットすると嬉しいです。

湯浅：実際に「日経テレコン21」を利用した時にどのような記事を検索しましたか？

春山：「ワーク・ライフ・バランス」を知りたい時はその言葉をキーワードに調べました。

湯浅：そうすると見出し語や記事の中の言葉でヒットしたものができただけですね。日経テレコン21が便利なのは、例えば「人工栽培」を検索した時に「水耕栽培」の記事がヒットするように、「見出

湯浅 俊彦先生
文学部教授



春山 菜穂子さん
経営学部
4年生



すのか



久万 愛加さん
経済学部 3回生



し)にない記事も検索できる仕組みがあることなんですね。久万さんはいかがですか？

久万：あるレポートを書く時に「本」と「新聞」を必ず一つずつ使いなさいという条件でした。その時に「日経テレコン21」を使いました。書いていたレポートが「いじめ問題」だったので、「いじめ」という言葉で検索をかけて、あとは図書館の蔵書検索で本を探してきて両方を見比べながらレポートを書きました。

紙の資料とデジタル資料を一度に検索できる DiscoveryService

湯浅：立命館大学では今年6月からDiscoveryServiceが導入され、紙媒体の図書や逐次刊行物と、電子媒体の電子ジャーナルやデータベースが同時に串刺し検索できるようになったのですが、使ったことはありますか？

久万：蔵書検索と間違えて何度かやったことがあります。

湯浅：今図書館のTOPページで普通に検索をするとDiscoveryServiceにつながりますよね。それは便利とは感じなかった？

久万：そうですね、そもそも「蔵書を探したい」という目的があったので、新聞とかが出てきちゃうとごちゃごちゃするのと、目的と違うのが出てきてしまって「あれ？」というのがありました。

湯浅：書架に行って現物を取りたいのに、いろいろなものが出てきて、邪魔に感じてしまうんですね。いままではRUNNERSで図書館所蔵の書誌がはっきりできてきたのに。

久万：きっと使い慣れたら広い分野が見られて、自分が欲しいと思っているもの以外に役立つ情報があることに気付けるかもしれません。そういう意味ではDiscoveryServiceみたいに「手に取れる紙の本に絞らない」で広く見ることができるのはいいことだと思います。ただそれに自分が順応していかないと……。その気分的なミスマッチで、使いこなす前に検索した結果がうまく受け取れないのだと思います。

利用者が古い習慣を変えることで見えてくるもの

湯浅：図書に精通して図書館の使い方がうまい人ほど、DiscoveryServiceが苦手という感じがですね。久万さんは図書に依拠して進めていこうとする。それは図書館の達人としては正当けれども、これからますますデジタル化されていく情報資源の使い方

からすると、そっちに慣れていかないといけないですね。文献によって典拠を示すというのは正しいが、もう少し視野を広げた場合に、国立博物館のデジタル資料から必要なものがあれば引っ張ってくるとか、そういう利用法もあるんです。

久万：今日いろいろなお話を聞いてDiscoveryServiceの便利な面だったり、今後普及していくんだろうなということがよくわかりました。頑張ってると思います。

湯浅：DiscoveryServiceを導入している大学は全国的にまだそんなにないんです。本学ではそれを先駆けて導入したんですね。学内の教員や学生が「以前の方がよかった」というのはいわば慣習なんですよ。前の時代の基準は、当然その時代では正しかった。ただそれが足かせになる場合もあるんです。

学生の「学び」が大学を変える

湯浅：図書館の今までの「本の倉庫」としての機能から、レファレンスを充実させてもっとみんなが利用できる図書館に。そして「びあら」のようなグループで自主的に使える学習の場の提供も大切だし、DiscoveryServiceのように図書に限らず串刺し検索するシステムや、さらには自ら発信できるような図書館に変わっていく必要があるんじゃないかなと思いますね。

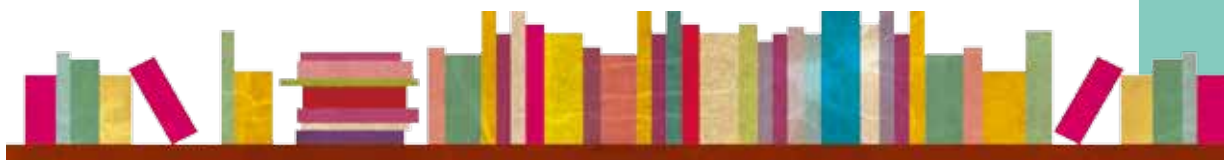
春山：図書館の名前の通り「図書」の「館」というイメージがあったので、これからどんどんデジタル化されていく中で「情報の場所」というイメージに図書館という場所が変わっていくだろうな、情報を発信する場所になるのかなというイメージに変わってきました。

久万：今日いろいろなお話を聞いて、図書館が新しい形にどんどん進んでいくということが分かり、私達もなんとかしてそれについて行かなければならないと思いました。図書館だけ良くなっていても、私達が固いままできて「本がほしいのだ」といっても、うまくいかないで、情報を探すのに慣れていかなければともしました。

湯浅：「びあら」のようなラーニングコモンズや、DiscoveryServiceがあることによって、立命館大学の図書館を利用したことが社会人になった時に役立つ。そんな図書館になれば本当にいいですね。今日はお二方にお会いできて本当によかったです。ありがとうございました。

春山・久万：ありがとうございました。

味わい深いスローフード



皆さんは、どんなときに図書館を利用しますか。

たとえばレポートを書くときがそうでしょうか。ただ、最近ではレポートは、インターネットの情報だけで済ませる人もいるようです。たしかにインターネットは便利で、必要な情報がだれにでも簡単に手に入ります。しかしこれは、長所であると同時に短所でもあります。だれにでも同じものがすぐに手に入るというのは、いわばファーストフードのようなものです。このようにして書かれたレポートはどれも同じようなもので、それを書いた人の個性やオリジナリティが見えてきません。

では、個性やオリジナリティのあるレポートはどこから生まれるのでしょうか。レポートのオリジナリティは、どれだけ自分自身の手足や目、頭を使ったかにかかっています。たとえば、自分で実際に図書館に足を運び、自分で本を手に取り、自分の目で見て、自分にとっておもしろそうか、自分にとって役立つそうか、自分にとって適切かを自分の頭で考えてみるのです。場合によっては、探していた本の隣にある本のほうがもっと役立つということもよくあることです。こうした寄り道は無駄のように思えるかもしれませんが、個性やオリジナリティは一朝一夕にできるものではなく、こうした手間ひまの積み重ねによってできるのです。そうしてできあがった成果物は、いわば味わい深いスローフードとでもいえるでしょう。

レポートだけではありません。皆さん自身の人間性、個性、オリジナリティは、学生生活をとおしてのこのような営みによって築きあげられるのです。図書館は、そうした味わい深いスローフードをつくるための食材がそろった市場です。おいに活用してください。

文学部教授・図書館長 **北尾 宏之**



*University of Coimbra Library
Coimbra, Portugal*



*The Laurentian Library
Florence, Italy*



特集3 図書館の学習空間と建築デザイン

図書館という建築について コインブラ大学図書館とラウレンツィアーナ図書館

ポルトガルのほぼ中央あたりに、コインブラという町がある。コインブラ大学の創立は13世紀末、ヨーロッパでも最古の大学の一つである。谷間の両側に小さな丘が二つあって、片方は白い家々が斜面を覆い、頂上に城郭のごとく大学の建築群が聳える。一方の丘は緑に覆われ、頂上には修道院が聳える。知と宗教、町と緑が対をなして風景をつくっている。大学自身が観光ルートになっていて、中でも最も見応えのあるのが図書館であった。豪華な大空間に膨大な数の書籍を納める書架が聳えていた。最近になって知ったが、世界一美しい図書館と評されているそうだ。豪華であるべきかに議論はあるにせよ、知性の象徴として図書館が大学でも最も重要視されていたのであった。

フィレンツェのサンロレンツォ教会の僧坊にラウレンツィアーナ図書館がある。建築家でもあったミケランジェ

ロの設計である。小規模ではあるが彼の建築作品の最高峰の一つだと私は思う。3階にある読書室へ2階から上る前室があり、流れ落ちる溶岩のごときと例えられる階段が部屋を占めている。解説なしでは理解しにくい、宗教的精神的課題として捉えた物質と形態の結合のドラマがそこに展開されている。読書室は対照的に静謐なデザインだ。完成しなかった貴重本室は完全性(ルネサンスの理想)を示す部屋として計画されていた。前室が冥界、読書室が地上界、貴重本室は天上界として設計されていたと解釈されている。人間が自らの存在を低次元から高次元へと磨き上げる場所が図書館だったのである。

これまでのヨーロッパ旅行を通じて、図書館が文化的に大きな存在であったことを教えられた事例を思い出し、紹介させていただいた。

理工学部教授・図書館副館長 **山崎 正史**



将来を考える上で影響を受けた本紹介 先輩学生から在學生に贈るお薦めの一冊

Contents ①本人情報 ②書誌情報

就職活動を超えて、
自分の人生をポジティブに考える
機会を与えてくれる本だから。



- ①大八木 博之さん
産業社会学部 現代社会学科 5回生
キャノン株式会社 内定
- ②『手紙屋 - 僕の就職活動を変えた十通の手紙 -』
喜多川 泰 著 (ディスカヴァー・トゥエンティワン)
2007年

「粘り強さと情熱」で動かす
ビジネスに惚れました！



- ①城田 莉那さん
国際関係学部 国際関係学科 4回生
三菱商事株式会社 内定
- ②『人は仕事で磨かれる』
丹羽 宇一郎 著 (文春文庫) 2008年

どんな苦境をもプラスの力へ、
より自分らしく生きていくことこそ
大切に思える本。



- ①玉置 裕一さん
経営学部 経営学科 4回生
小野薬品工業株式会社 内定
- ②『置かれた場所で咲きなさい』
渡辺 和子 著 (幻冬舎) 2012年

自ら変化・
挑戦を好める
きっかけになったので。



- ①林 勇太さん
経営学部 国際経営学科 4回生
川崎重工工業株式会社 内定
- ②『この国を出よ』
大前 研一, 柳井 正 著 (小学館) 2010年



足りないものを求めるのではなく
"いまの自分"を大切にしようと
思える本です。

- ①榎 真梨子さん
生命科学部 生物工学科 4回生
株式会社三和化学研究所 内定
- ②『ぼくを探しに』
シルヴァスタイン 著 (講談社) 1977年

皆さんの将来の「夢」や「目標」は何ですか？将来どのような職業につき、どのように働いていこうと考えていますか？ここでは、就職先が内定し、後輩学生の皆さんの為に就職活動支援を行っているジュニア・アドバイザーの先輩学生の皆さんに、「働き方」・「生き方」を考える上で影響を受けた本を推薦フレーズと合わせて紹介してもらいました。「本」はときに読んだ人の価値観・人生を大きく変えてしまうといっても過言ではありません。皆さんも是非、お気に入りの本を図書館で探してみませんか？そこからあなたの新たな人生の一步が始まるかもしれません。

自分磨きへの向上心が湧き出てくる一冊。人生のバイブルになりました。



①佐々木 美枝さん
政策科学部 政策科学科 4 回生
イオンリテール株式会社 内定
②『夢をかねるゾウ』
水野 敬也 著 (飛鳥新社) 2011年



①芦田 英恵さん
文学部 人文学科 4 回生
株式会社マイナビ 内定
②『思考の整理学』
外山 滋比古 著 (ちくま文庫) 1986年

多くの情報が飛び交う就活中、うまく自分の中に必要な情報を吸収できる。



自分の知らなかった「世界」を知ることができ、仕事でもいろんな「世界」を知りたいと考えるようになったから。

①馬場 貴志さん 法学研究科 M2
株式会社ローソン 内定
②『深夜特急』
沢木 耕太郎 著 (新潮文庫) 1994年

一流リーダーの仕事観・人生観が、自身のキャリアを考えるヒントに！



①仲松 匠さん
理工学研究科 M2
KDDI 株式会社 内定
②『外資系トップの仕事力 -経営プロフェッショナルは
いかに自分を磨いたか-』
ISSコンサルティング 著 (ダイヤモンド社) 2006年



①神林 優太さん
理工学研究科 M2
株式会社野村総合研究所 内定
②『ながい坂』
山本 周五郎 著 (新潮文庫) 1990年

人の生き方の価値は一軸で評価できるものではないと改めて感じた。



recommend books...

“読楽コーナー” 学生選書 前期活動報告

衣笠図書館、メディアライブラリーで、学生有志による読楽コーナーの学生選書をおこない、選書した本を7月9日(月)に展示しました。学生目線で選んだ図書なので、読みたくなる本がたくさんあるはずです。ぜひご利用ください。

衣笠キャンパス テーマ「つなげよう 読書の輪」

6名の選書スタッフが、さまざまなジャンルの本を選書しました。1つのジャンルにこだわらず、多くの本を読んで、大学生のうちに新しい自分を開拓しよう!



びわこ・くさつキャンパス テーマ「自分探し」

スタッフが多くの学生に、「自分が今まで読まなかったジャンルの本に挑戦し、新しい自分を発見してもらいたい」との思いでそれぞれ本を選びました。



新入生歓迎特別展 『自校史-立命館のあゆみ-』を開催しました

立命館大学図書館では、立命館百年史編纂室の協力を得て、新入生歓迎特別展「自校史-立命館のあゆみ-」を開催しました。この展示は、新入生の皆さんに、立命館大学の歴史の一端を鑑賞していただき、大学で学ぶ意義を考え、これから始まる大学の自立的学習の一助としていただくことが目的です。

■日程/ 2012年4月1日～6月30日 ■場所/ 立命館大学衣笠図書館(1階 展示コーナー)

展示品

新入生のみなさんに配布される「未来を拓く—ようこそ立命館へ—2012」の中から「第3部 立命館のあゆみ」に沿って、立命館が創立された時から戦中・戦後を経て現在に至る、当時の実物や写真を公開しました。



参考文献

「未来を拓く—ようこそ立命館へ—2012」に掲載されている参考文献のコーナーも特設しました。同刊行物は、2010年4月に、全学にわたる本学教員の執筆に加えて学生の皆さんが協力者となって発刊されました。この刊行物は、新入生の皆さんにむけて、立命館のあゆみなど、大学でともに学び生活するために知ってほしいこと、考えてほしいことなどについてまとめたものです。掲載内容は次のとおりです。

- 第1部「大学での学びと生活、大学の自治」
- 第2部「青年期の自己形成と人種 一人とつながって自分を生きる—」
- 第3部「立命館のあゆみ」
- 第4部「国際社会における平和と人権」

